

グローバルカーボンニュートラルの進め方

例えば、セブンイレブン様がTVコマーシャルで「自社の設備は100%再エネ化を目指しております」と言われておりますが、周辺の企業や住民が追従しようとしても、すぐ隣にある再エネ機器が共通でつかえずに、新規に再エネ機器を設定するようになり、全体効率が悪くなります。

また竹中技術研究所様では『「建物単体」ではなく「都市レベル」で考える』と言っておられますので、マッチベターではありますが、周辺の都市が達成しようとしたとき、先に達成した都市の「囲い」が足かせになり、最初から共通で考えれば、効率のよい部分が、そうでない場合が多々発生します。

すなわち「都市レベル」ではなく「すべての都市レベル」=globalで考えることが正解となります。（世界はつながっています）

また、よく「地方個有の課題」という言葉を使いますが、例外がないわけではない程度で、どこの都市も（介護負担問題、少子高齢化、過疎化や人手不足による交通手段の維持の問題、空き家・空き地問題、貧困問題等・・・）ほぼ共通して存在しています。⇒日本全体あるいはG7の共通の課題としてよい。

さらに、従来美德とされてきました「一つひとつ丁寧に・・・」は、生活を便利にする一通りのインフラが出そろい複雑化した社会においては「あちらを立てれば、こちらが立たず」のような感じで、間違った考え方になります。

従いまして、私は「**全方位同時改革&global 同一改革**」を提唱していますが、各地域ごとや各国が個別に進めるのではなく（共通課題なので、なるべく広く考え情報共有を図る）いくつかの優秀な**グローバルスタンダードの技術**を決めて、それが導入可能な地域から、周辺地域とよく連携し（**遅れて導入する地域が困らないようにしながら**）進めるやり方が正しいカーボンニュートラルの進め方となります。

優秀なグローバルスタンダードの技術候補として、「**木造人工島の波力発電システム**」と「**ツリー型太陽光発電システム**」を提案しております。詳しくは「木造人工島」で検索され、ガーデンフィールドのホームページの「木造人工島の波力発電」と「ツリー型太陽光発電システム」をご参照下さい。

また、本資料の末尾に全再エネ化時代の未来住宅（ウクライナ復興住宅）の提案をしております。事故・故障が前提の低速自動運転車システムとのコラボで、自動介護や自動子育てシステムを生活の中に組み入れ、介護や子育てで、負担がほとんどかからずに従来よりもスキップが増えると考えています。

↑資料は「車内自動介護システム」をご参照。

「木造人工島の波力発電システム」概要

もともと古くから「波力発電」の発想はあったのですが、簡単な海上浮遊技術がなかったがために、実現しませんでした。

また、木造人工島（密閉木箱）は簡単な原理ですので、150年前でも開発が可能なものです。世界の盲点となっていた技術であり、特許「7112150 浮遊人工島」の取得ができました。

海水の流れは浅瀬に向かう性質があり、波は常に海岸に向かってきます。沿岸部に□12mの木造人工島を4個つくり、その上にφ19mの水車を設定し、水車の方向を海岸線に垂直に向け、波の受け口よりも狭い流路幅で水車を回すと高速で回転し、また水は空気のエネルギーに比べ770倍なので、トルクが大きく、ギアボックスでの加速が効き、高速で発電機を回し、24時間大容量の発電が可能となる。

低コスト・短納期・大規模に拡張可能で、森林の循環にも貢献し、環境にやさしく、すなわち global スタンダードとなり、世界の再エネの60%以上を賄うことができると考えています。（もはやメガソーラや風力発電は不要です）

1/16

国連からも応援メッセージが届いています。
(普及にご協力ください)

全ての波は海岸に向かって進みます。
波の流路を狭めることで流れが加速し、
大型水車を高速で回すことができます。

水エネルギーは空気の770倍、木製水車が世界を救う。

木造人工島の波発電は、低コスト・短納期・24時間大規模発電が可能で、環境にやさしく、森林の循環に貢献する。

流れが加速

木造人工島

住宅より安く早くできる。

大型水車

ギアボックス & 発電機

密閉木箱 (浮力UP)

各種養殖が可能で、世界の食糧危機も同時に救うことができます。

木造人工島の波発電で、全再エネ化達成

HPの「木造人工島の波力発電」のP2に風力発電との比較を掲載しています。

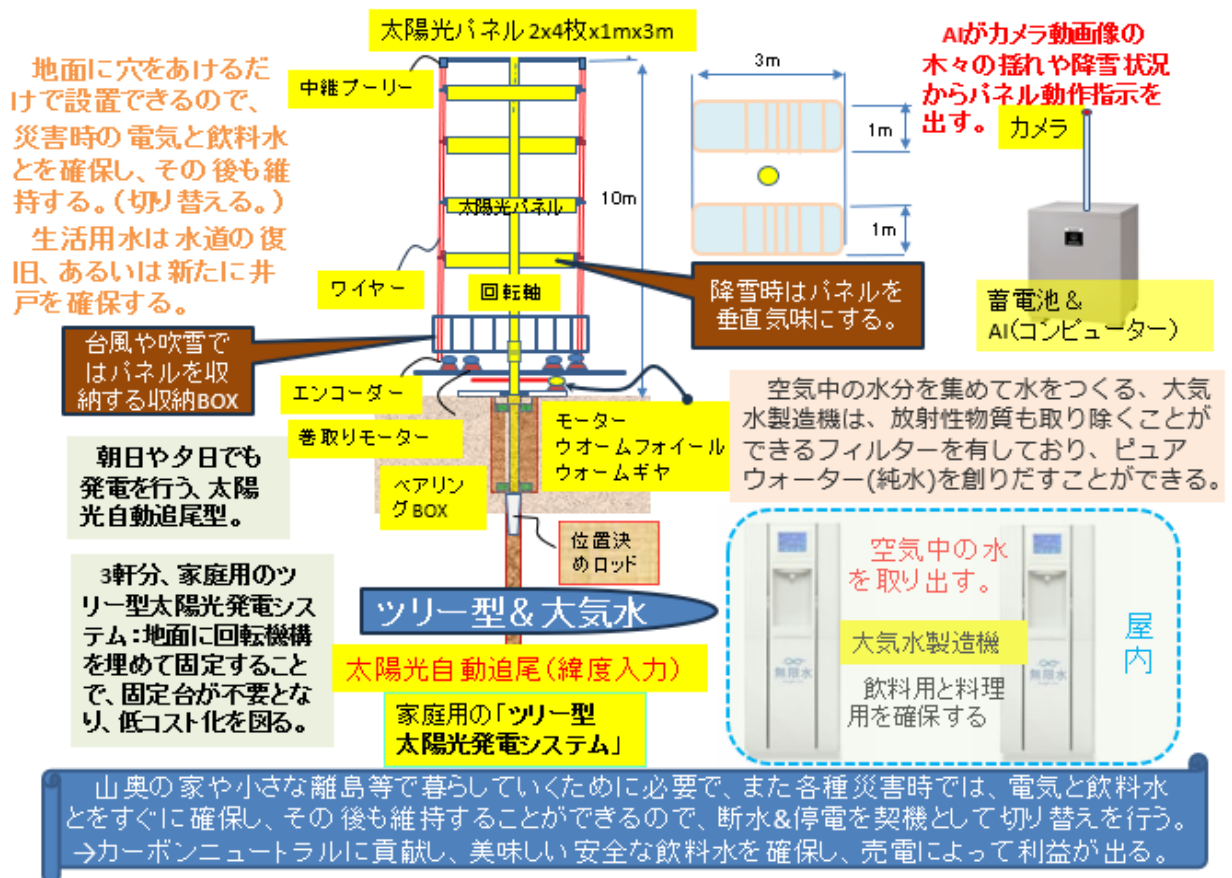
「ツリー型太陽光発電システム」概要

もともとは天軸型太陽光発電システム「特許第 6656522」と命名をしておりましたが、内閣府のスタッフの方から、天軸型はダサいので「ツリー型」にしたらどうですか？と言われ、「ツリー型太陽光発電システム」に改名した経緯があり、電話で話すと経産省（NEDO）や環境省のスタッフ達からも概ね好評なのですが、政府には（原発、風力発電事業や褐炭事業等の利権がらみでの発電システムが推進できなくなるのと）、まだ実現しておりません。

最近になって、大気水製造機（空気から水を抽出する）が実用化されましたので、場所をとらず、直ぐに設置できる「ツリー型」が、災害時に水と電気とをすぐに供給できるシステムとして、重宝すると考えています。

AI がカメラ動画から、降雪や木々の揺れ具合から風の強さを知り、太陽光発電パネルへの退避指示が出され、台風や豪雪にも耐えるので、カーボンニュートラルを達成する有力なひとつの手段として、すなわち global スタンダードとして世界中に急速に普及し、莫大な利益をもたらすと考えています。

災害時の停電&断水に対応し、電気と飲料水を確保し、永遠に維持する。



ツリー型の設置手順としては、以下のようなプロセスを踏みます。

1. パワーショベルで地面に大きな穴をあける。
 2. 上記穴のセンターにドリルで細い穴をあける。
 3. 位置決めロッドが細い穴に入るようにして、ベアリングユニット設置
 4. 土砂をベアリングユニットの周りに落とし、固める。
 5. 上部の構造物（各種モーター、ワイヤー、軸、受光パネル等）設置
- の手順ですが、ベアリングユニットと同寸法（+α）のドリルがあれば、パワーショベルを必要とせず、さらに簡便に設置できます。


詳しい資料は、木造人工島で検索され、ガーデンフィールドの HP の「ツリー型太陽光発電システム」をクリックされ、ご確認下さい。

<考え方まとめ>

「何らかの形で、できるところからやる」は間違っており、global tandard 技術にて、将来のシナリオを世界が共有し、先にできる地域は、後から追従してくる地域のことを考慮しながら進めることが正しい進め方です。

G7で先陣を切り、世界中に輸出をしながら、全体を育て、最終的にはどこの国でも構築&メンテナンスができるようにします。

5/16

globalカーボンニュートラル戦略(COP28発表資料案)  United Nations Climate Change

未承諾・交渉予定

世界共通課題の環境問題は国連が中心になって、将来の仮シナリオを作成しながら、全方位同時改革及び全世界同一改革を目指していくべきである。
木造人工島の「波力発電」と「海産物農業」の早期大規模普及により、世界のカーボンニュートラルと食糧危機とを同時に解決していく必要がある。

環境問題解決5原則	部分的に考えるのはNG!
自然体で習慣化できること より簡単になること より快適になること より安全になること より豊かになること	成果報告を求めずノルマを課さない ほんのわずかにでも無理をしない 世界のトータルコストが減ること 世界のトータルで負荷が減ること 世界のどこかにしわ寄せがいかないこと
ごみの分別、ごみの持ち帰り、ノーネクタイはOK 空調で我慢をするのはNG(短期的にはOK)	環境破壊を伴う、メガソーラはNG 森林伐採や健康障害を伴う風力発電はNG

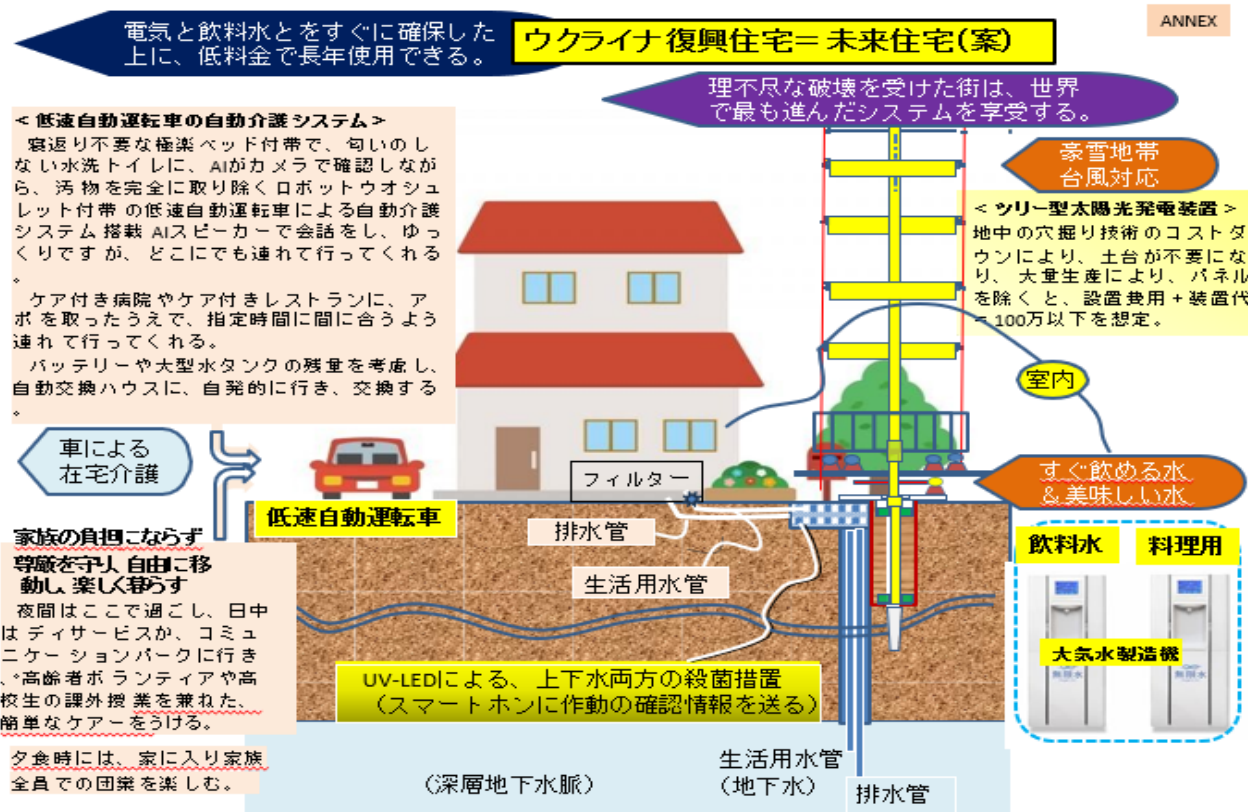
世界のありとあらゆる沿岸部と河川とを「木造人工島」で埋め尽くし、上側では大型水車を回し、ギャボックスで回転数を増した上で、発電機を回し、下側では各種の養殖や水耕栽培を行い、カーボンニュートラルと食糧危機とを同時に解決する。
低速自動運転車社会にて、子育て環境を改革し高齢者の尊厳を守り、介護負担を大幅に減じた、誰も取り残さない、誰もが不安や不満のない、楽しく明るい世界を実現する。

<未来住宅の提案>

沿岸部の都市の機能（デパートや商店街・マンションや住宅街）や大規模交通システム・各種工場は、木造人工島の波力発電で賄い、内陸部は地下ケーブルで電力を持ってくるか、河川の総合開発による、プールを設定しての水流発電システムを稼働させるかですが、内陸部の住宅街では、各種「ツリー型」が簡便で有効です。

複数のツリー型と50～100軒ごとに電力ネットワークを組むと、故障やメンテナンス、あるいは地震等で破壊（すべてのツリー型が破壊するとは考えづらい上に、自治体で用意しているバックアップ用のツリー型が使える。）した場合に、停電になることはまずありません。

エネルギー代は大幅に減り、従来の1/10～1/20程度になり、大気水製造機で、飲料水と料理用の水を確保すると、その他の生活水（洗濯やお風呂等）は、井戸水やきれいな河川の水を引けばよいので、従来の水道システムは不要になります。（排水に関して、当面は現状のままですが、数十年先には殺菌をしたうえで深層地下水に流し、また生活用水を得る完全循環型を目指していきます。）



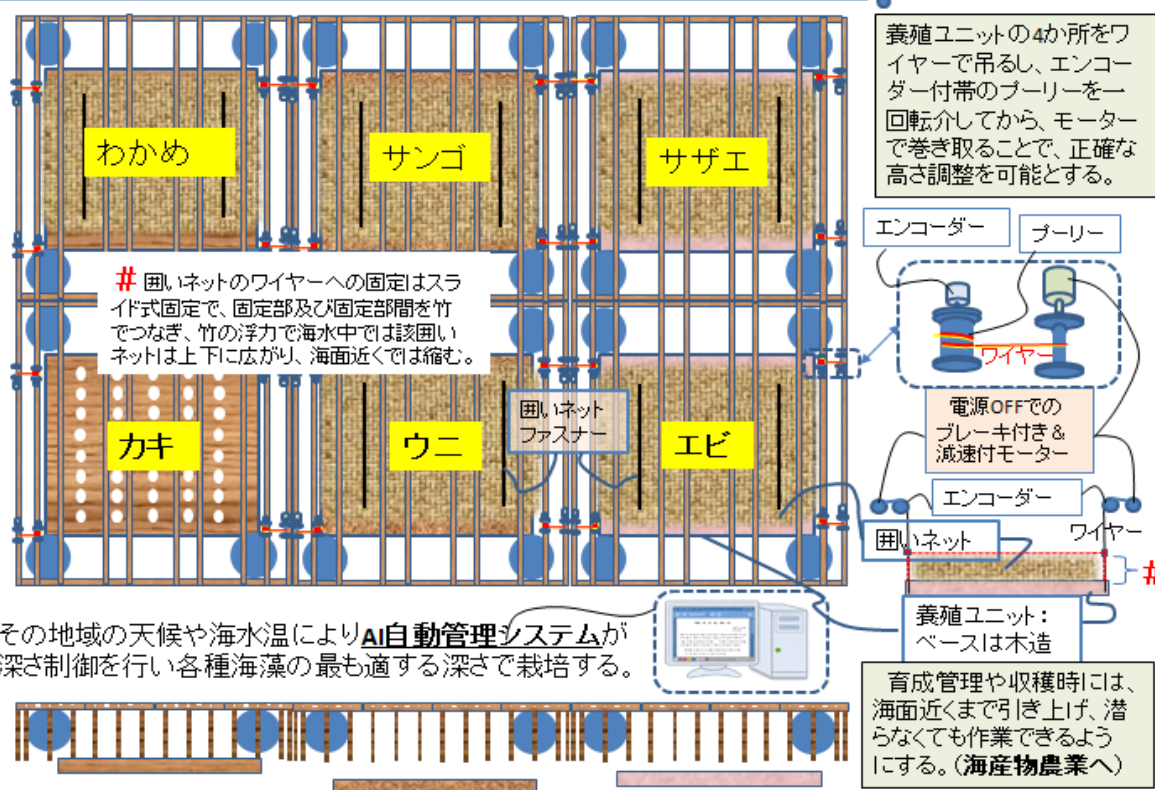
＜海産物農業の提案＞

海産物農業とは、海産物ながら、農業感覚で育成や収穫ができるもので、魚の養殖の場合は、木造人工島の間や木造人工島の下に大規模な網を敷いて、魚が広範囲に回遊できる魚牧場を簡単に作ることができ、網を海面近くまで引き上げて、木造人工島上から「たも網」で魚を収穫できます。

また、木造人工島から養殖ユニットをワイヤーで吊り、海面付近に引き上げて、ひざ下または股下程度まで海水に浸りながら、海中に潜らずに、農業感覚で各種の作業ができるので、養殖とは言わず、「海産物農業」と呼ぶようにしています。

□12mの人工島ユニットごとに、□8~10mの「養殖ユニット」を設定し、4本のワイヤーで吊り、AIが温度や日照を考慮して、最適な深さ制御を行う。

海産物農業

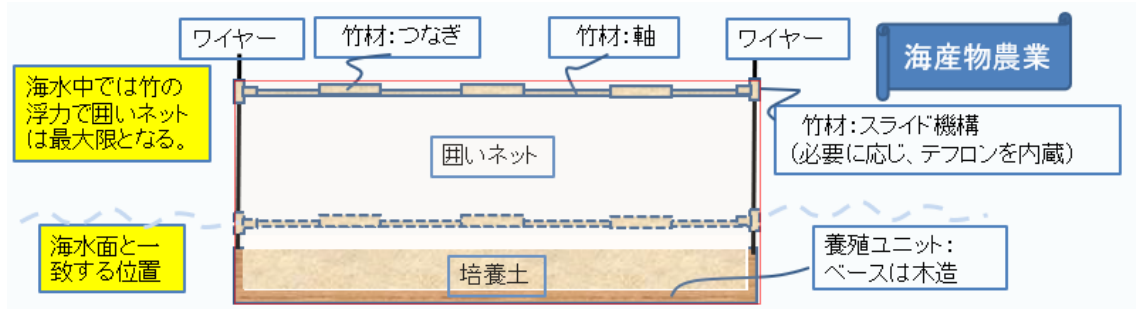


養殖ユニットの上側に「囲いネット」を、4本のワイヤーに竹材を通し、また竹材をフレームとして使い、蚊帳を吊るような感じで設定し、魚などの外敵を防止するとともに、養殖物の逃げ出しや流出を防止する。

「囲いネット」は、ワイヤー部での固定がスライド式になっており、固定部及び固定部間を竹材でつなぎ、該竹材の浮力で海水中では該「囲いネット」は上下に最大限広がり、養殖ユニットが上昇し、竹材が海水面に位置すると変わ

らないので、「囲いネット」は上下方向に凹むようになり、海水の中に潜らなくとも各種作業が可能となる。（→農作業）

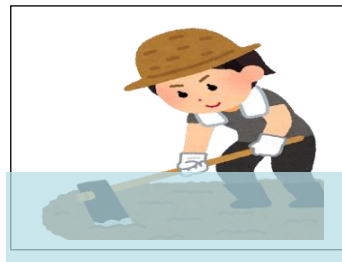
また、「囲いネット」上部には、複数のファスナーが設定されていて、農作業を行うときにはファスナーを開けて行う。



尚、養殖ユニットの引き上げ、引き下げは、AI サーバー経由による遠隔制御ながら、スマートホンアプリを使用し、リモコンの感覚で操作が可能です。

腰まで入るような、長いつなぎの boots を履いて、ひざ下～股下くらいの海水の中で農作業感覚で、餌や栄養を与えたり、収穫ができます。

畑を耕したり、草とり、外敵（イノシシや熊の出没等）の心配がなく、土地を買うこともなく、低コストで大規模に各種の作物の栽培や養殖が可能になります。



エビ・ウニ・カキなどの動物、サンゴ・昆布・ノリなどの植物の、各海産物の最適な環境での農業が可能であり、しかも干ばつや、水不足、洪水や地震の影響もなく、世界の食糧危機を回避できると考えています。

しかも、海や湖での農業が可能になり、従来作物の育たない地域でも大規模な農業が可能になり、さらに塩水でも生育する（そうでなくとも、人工島をベースとした各種再エネの大電力で、真水に変えて）作物が大規模にできると、牛や豚の放牧なども可能になり、食の地産地消化が進むと考えています。

海産物農業では、農薬を使わず、草取りを行わず、水やりの必要がなく、天候にも左右されず、台風や地震・津波にも強いという特徴があり、さらに獣害・虫害・伝染病棟の心配もなく、盗難もされにくので、まさに理想的な農業（養殖）と言えらると思います。

「ブルーカーボン」海産物農業の代わりに、CO2 を吸収する海藻（樹木の 10 倍の CO2 吸収能力をもつ）を木造人工島の下側で育成することもできます。